

## 6. 沢良宜城跡

沢良宜城跡は、南茨木駅から南東方向に直線で500m位の所にあります。

詳細は定かではありませんが、藤井三位の居城として知られています。三位は1399年（応永6年）に起きた「応永の乱」の際、足利義満の直参旗本として出陣したとされますが、その後の藤井氏の動向は不明で、おそらく「応仁の乱」前後には廃城となっていたようです。

現在城址は「美沢公園」と「団地」になっており、城址碑と案内板が設置されています。公園に隣接する佐和良義神社の参道は当時の馬場跡とされます。

茨木市には沢良宜とつく町があるので、城跡は当然そこにあるものと思われていますが、隣町である美沢町にあります。城跡は巨大なマンションが林立する区域にあったようですが、小さな城跡碑と解説板はマンションに隣接する小さな公園（美沢公園）内のフェンス際にあります。

### 解説板の内容

室町幕府三代将軍足利義満（1368-94）は、少年の義持に将軍職を譲って五年目にあたる応永六年（1399）、堺港に進出してきた周防国の大内義弘を堺に攻めたとき、沢良宜城主藤井三位は義持将軍から「御馬廻り免状」をもらい、家老職や郎党を従えて勇躍出陣したと伝えられています。

「御馬廻り衆」とは、いわば室町幕府直参の旗本で「応永記」は三千騎と記しています。

当時の沢良宜勢は約三千坪の城（環濠の砦）を中心に、勝尾寺衆徒の中でも相当な力を持っていたようです。（勝尾寺文書）

この城（小字宮西）は、応仁の乱（1467-1477）の頃か、もう少し前の1400年代の早い時期になくなったと考えられています。

現在、城跡地（美沢町）は高層のマンションや住宅となり、その南端（小字野村垣内）にはボウリング場などができています。

また、隣接した式内、佐和良義神社の拝殿前にある八幡神社はお城の守護神で南北に長い参道は、乗馬訓練の馬場といわれています。

